

## 平成23年度 重点目標

生涯学習の一拠点として、より多くの市民に親しまれ、市民生活に根をおろした図書館を目標に、「安城市図書館推進計画」に基づき、図書館サービスの充実と図書館活動の推進をより一層積極的に図ります。

- ①-1 総貸出冊数の目標を、21年度実績202万4,370冊を上回る203万冊とし、22年度の減少傾向を食い止めます。
- ①-2 個人貸出冊数の目標を、21年度実績197万0,628冊を上回る198万冊とし、22年度の減少傾向を食い止めます。
- ①-3 「市民実利用者」は、3万2,000人以上の維持を目指します。
- ② 安城らしい「地域電子図書館」を構築するため、貴重資料及び行政資料のデジタルアーカイブ化を全庁的に連携して計画的に進めます。
- ③ 「第2次子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動を一層の推進するとともに、安城版ブックスタートの準備を進めます。
- ④ 中心市街地拠点施設における「新図書館」整備の準備を、市民等の意見を聴取しながら推進します。

### 【具体的な取組】

- ① **利用者ニーズに沿った図書館資料の整備充実と市民に開かれた図書館運営**
  - (1) 図書・雑誌・視聴覚資料の市民ニーズに沿った計画的な購入を継続します。
  - (2) 「利用者カード」の新規登録を推進するとともに、開館時間拡大（平日は午後7時まで）の周知や有効期限の設定を検討するなどの方策を講じて新規利用者の開拓と再利用率の向上を図り、「市民実利用者数」の向上に努めます。
  - (3) セルフ方式「自動貸出機」の利用を推進するとともに、臨時職員を含む職員研修を充実させるなどで、窓口業務の効率化とレファレンス等の充実に努めます。
  - (4) クレームの減少に努め、利用者の要望や意見を取り入れたサービスの向上を図ります。
  - (5) 市民との協働による図書館運営を進めるため、安城図書館友の会の組織・活動の充実と図書館ボランティア活動への市民や企業ボランティアの積極的な参加を図ります。
- ② **地域電子図書館の計画的な構築**
  - (1) 図書館所蔵の貴重図書等地域資料の計画的な選別、及び市所有の行政資料の体系化を進め、新図書館を見据えた「安城独自」のデジタルアーカイブの構築を進めます。
  - (2) 市民向けインターネット接続パソコンの利用、及び新聞記事検索・法令等の外部データベースを活用した情報提供システムの拡充と利用促進に努めます。
  - (3) 全面ICタグ化による資料の管理強化と窓口・蔵書点検業務の効率化を進めます。
- ③ **「第2次安城市子ども読書活動推進計画」に基づく子どもの読書活動の一層の推進**
  - (1) 学校図書館等ボランティアの実態把握を進め、図書館読み聞かせボランティアとの連携により、公立の幼稚園・保育園への「出前おはなし会」の充実を図ります。
  - (2) ブックスタート事業及び安城版創作絵本の全国公募の実施に向けて、市民の意見を聴取しながら準備を進めます。
- ④ **「中心市街地拠点整備基本計画」及び「新図書館基本計画」に基づく新図書館整備に向けた準備**
  - (1) 庁内関係各課との協議を進め、新図書館の管理運営方針を策定します。
  - (2) 旧更生病院跡地に「新中央図書館」を核とした複合施設を整備するため、市民の意見等を反映させた「新図書館整備水準」の策定を進めます。

## 平成22年度 重点目標【検証】

生涯学習の一拠点として、より多くの市民に親しまれ、市民生活に根をおろした図書館を目標に、「安城市図書館推進計画」に基づき、図書館サービスの充実と図書館活動の推進をより一層積極的に図ります。

- ① 総貸出冊数の目標を21年度比2.0%（4万冊）増の207万冊とし、市民一人11.5冊を目指します。
- ② 個人貸出冊数の目標を21年度比2.0%（4万冊）増の202万冊とし、市民一人11.2冊を目指します。
- ③ 「市民実利用者」は3万人以上の維持を目標に、少しでも増加を目指します。
- ④ 安城らしい「地域電子図書館」を構築するため、「山崎文庫」等貴重資料のデジタル化を関係課と連携して進めます。
- ⑤ 「子どもの読書活動推進計画」の検証・見直しを行い、子どもの読書活動の推進を図ります。

① 貸出冊数は、3月  
末で

- (1) 総貸出冊数  
199万4,522冊
- (2) 個人貸出冊数  
193万5,628冊  
であり、年度目標は達成できず

③ 市民実利用者数は一定の伸び  
(H22年度)32,098人  
前年比+1,370人  
(H21年度)30,728人  
前年比+499人  
(H20年度)30,229人

### 1 利用者ニーズに沿った図書館資料の整備充実と図書館の運営

- (1) 図書・雑誌・視聴覚資料の市民ニーズに沿った計画的な購入を継続します。
- (2) セルフ方式の「自動貸出機」をICタグ対応に更新し利用を推進するとともに、職員配置等を再検討し窓口業務の効率化とレファレンス等の充実に努めます。
- (3) 「利用者カード」の新規登録を推進するとともに、有効期限の設定を検討し、「市民実利用者数」の向上に努めます。
- (4) 中央図書館の開館時間拡大（平日は午後7時まで）の周知を図り、新規利用者の開拓と再利用率の向上に努めます。

④ デジタル化は H22  
で 1116 画像を加えて、H18 からの累計で書籍・古地図を 163 点 14,722 画像、民声新聞を 3,330 画像の合計 18,052 画像分をデジタル化した。  
Web への公開は H20.12.25 から実施しており、22 年度には資料検索との連携拡張を実施した。

⑤ 子ども読書推進計画の見直しは、予定通り完了。

### 2 地域電子図書館の計画的な構築

- (1) 図書館が所蔵する貴重図書等の地域資料の計画的な選別・デジタル化に引き続き努め、「安城独自」のデジタル資料の構築と閲覧・公開を進めます。
- (2) 市民向けインターネット接続パソコンの利用、及び新聞記事検索等の外部データベースを活用した情報提供システムの拡充と利用促進に努めます。
- (3) 全面ICタグ化による資料の管理強化と窓口・蔵書点検業務の効率化を進めます。

### 3 「安城市子ども読書活動推進計画」の検証と見直しによる子どもの読書活動の一層の推進

- (1) おはなし会・ミニコンサート・読書講演会等を計画的に開催します。
- (2) おはなしボランティアなどの図書館ボランティアを計画的に養成します。
- (3) 団体貸出用図書、乳幼児向け絵本、ヤングアダルト用図書の充実に努めます。
- (4) 学校図書館等ボランティアの実態把握を進めるとともに、図書館読み聞かせボランティアとの連携を図ります。

### 4 安城図書館友の会など図書館ボランティア活動への積極的な支援の充実

- (1) 安城図書館友の会の組織・活動の充実に努めます。
- (2) 図書館ボランティア活動への市民や企業ボランティアの積極的な参加を図ります。

### 5 「中心市街地拠点整備基本計画」及び「新図書館基本計画」の周知と新図書館整備に向けた準備

- (1) 旧更生病院跡地に「新中央図書館」を核とした複合施設を整備するため、基本計画の市民への一層の周知と合意形成を進めます。
- (2) 庁内関係各課との協議を進め、新図書館の管理運営方針を策定します。

## 「安城市図書館推進計画」の進ちょく状況について

中央図書館では、平成17年度に策定した「安城市図書館推進計画」に基づき、生涯学習の拠点施設として、より多くの市民に親しまれ、市民生活に根をおろした図書館サービスを目標に、より一層の図書館資料の充実と図書館活動の推進を積極的に図っています。

目標年次の平成26年までに目指す「安城市の図書館像」は次のとおりです。

- 「市民一人年間個人貸出冊数＝10冊」をはじめとした国の望ましい基準の達成を目指した総合的・計画的な各種図書館サービスの推進が図られています。
- すべての市民の生涯学習を保障するための市民ニーズを的確に把握した計画的な図書館資料の収集と保存、提供が図られています。
- ICチップ(ICタグ)を活用した受付業務の効率化と蔵書管理の充実強化が図られています。
- インターネットを活用した図書館サービスの充実とIT社会に対応した地域電子図書館の構築が図られています。
- 学校図書館等との連携により、子どもの読書活動が推進されています。
- 市民との協働による図書館運営を促進し、読み聞かせの推進や管理運営に市民等のボランティアが活躍できる場所が提供されています。
- 市民及び利用者の声に耳を傾けた図書館運営が推進され、数値目標の設定・点検・評価・公表によるサービス水準の向上が常に図られています。

平成22年度は、具体的な数値目標を「年間総貸出冊数＝207万冊、年間個人貸出冊数＝202万冊」などと定め、利用者ニーズに沿った図書館運営を目指して、「全面IC化による貸出・返却処理及び蔵書点検の迅速化・効率化」や「新規登録の推進と市民実利用者数の向上」などに取り組みました。

しかし、団体貸出を含めた総貸出冊数は199万冊余、個人貸出冊数は193万冊余(資料①)となり、目標値の207万冊(個人202万冊)はおろか21年度実績の202万冊(個人197万冊)も達成できませんでした。団体貸出は前年比9.6%の伸びで前年度実績を上回ったものの、個人貸出は中央図書館が前年比△1.5%(21年度は+2.7%)、公民館等の計は△2.2%(同+5.5%)といずれも減少しました。なお、これらを市民一人当たり換算すると、総冊数は11.1冊(21年度11.3冊)、個人冊数は10.7冊(21年度11.0冊)で、国の示す望ましい基準(10冊)を上回っています。

予約件数は平成15年度からサービスを始めたWeb予約が22年度もさらに増加し年間予約件数は昨年比+0.8%(21年度は+16.8%)、Web予約は+3.7%(同+18.9%)と伸び率は鈍化しているものの依然増加が続いており、22年度は年間でWeb予約が136,747件で、予約全体の72%を占め、予約件数全体では前年度の188,186件をやや上回り189,768件となりました。

年間個人貸出冊数は平成6年度(16年前)比で2.3倍以上、平成15年度比でも1.5倍以上を維持しています(資料③)。また、予約件数に至っては平成6年度比で実に24倍以上、平成15年度比でも4.2倍という状況です(資料④)。

近年伸び悩んでいた「実利用者数」については、22年度はようやく上昇に転じ、市内32,098人、市外4,549人、計36,647人となりました。なお、21年度は年間で市内30,728人、市外4,451人、計35,179人、20年度は市内30,229人、市外5,035人、計35,264人でした。